

英国海兵隊研修報告

(株) NSD コンサルティング

代表取締役 早野禎祐

1. 日 時

2019年9月16日(16:00)～9月17日(16:00)

2. 場 所

英国プリモス ストーンハウス海兵隊基地及びデヴォンポート海軍基地(ターマル海兵隊分屯地)

3. 参加者

フリージャーナリスト：清谷信一氏

フォトジャーナリスト：柿谷哲也氏

海上自衛隊OB：早野禎祐

4. Key Word

(1) We have 370 Years History

(2) We are Part of Navy

(3) Joint Operation

使用する写真は全て柿谷氏撮影のものです。



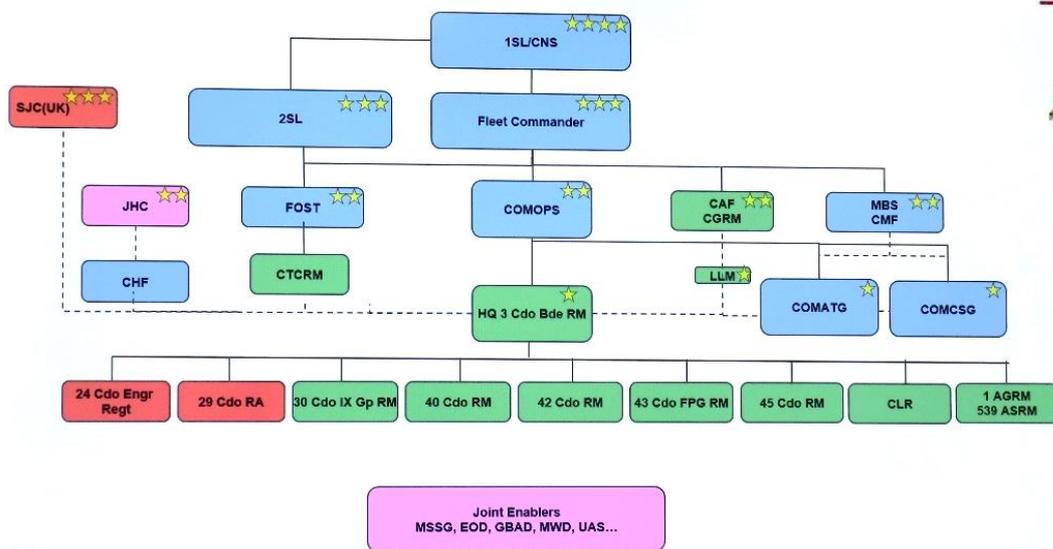
ストーンハウス基地はローマ時代の駐屯地跡に築かれたもの(建物はナポレオン戦争のフランス捕虜により建設された。)建物は第3海兵旅団司令部。



特別にブリーフィングまで用意してくれました。

「英国海兵隊の組織と位置付け」（ブリーフィング資料から）

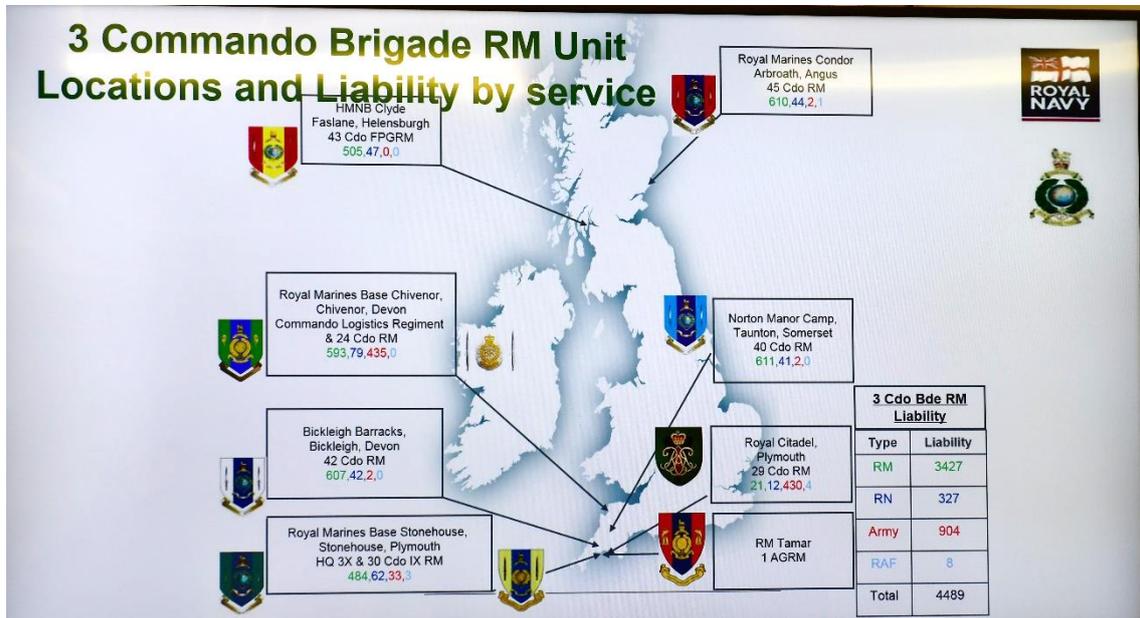
How the RMs are organised



英国の海兵隊は第3海兵旅団のみ。（青：海軍、緑：海兵隊、赤：陸軍）

第3海兵旅団は陸軍の第24コマンドー工兵連隊、第29コマンドー砲兵連隊を含みますが、海兵隊（海軍隷下）の組織として命令系統は一本化されています。（合同（或いは統合）部隊ではありません。）

第3 海兵旅団の駐屯場所と人員



海兵隊、海軍、陸軍、空軍の隊員から構成され、総計4459名。
海兵隊員だけの人数は3427名と意外と小さい。

海兵隊の任務

Policy / Purpose

Strategic Defence and Security Review 15

'The Royal Marines will continue to provide a **specialist infantry** capability, with expertise in **amphibious, arctic and mountain warfare**.' (SDSR 15).

'The RM LCG (up to 1800 personnel) will continue to provide part of our VHR Joint Task Force able to be deployed by **helicopter and landing craft**, with **protected mobility**, logistics and, command and control support from a **specialist landing and command ship, three Landing Ship Docks** and/or from the Queen Elizabeth class **aircraft carrier**.'

A multi-function HQ

Formation Command	Deployable 1* HQ @ R2
Force Generation Authority	Capability and Tactical Development (0-3 years)
Delivery Duty Holder	

Outputs

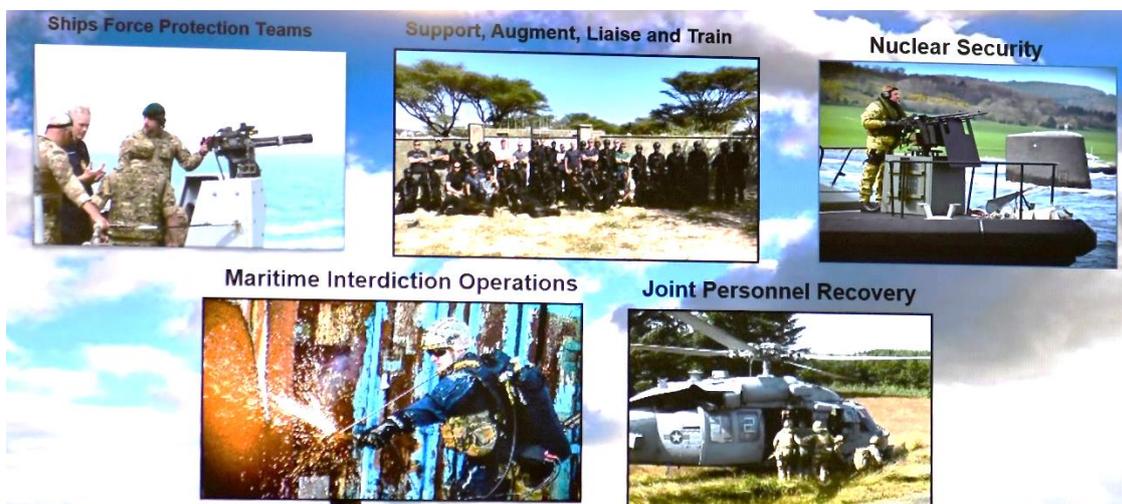
Standing Tasks	Very High Readiness	Global Engagement
Nuclear Deterrence Sy Support to the Fleet UK Resilience Ops Training Support Ceremonial	Lead Commando Group @R2	Augmentation to Ops DE & Cap Bldg NATO assurance Environmental Training

Fleet Comd Direction:

- 2nd Cdo Unit @R5

水陸両用、北極および山岳戦の専門知識を備えた特別歩兵能力を提供する。
海兵隊の Leading Commando Group はヘリコプターや上陸用舟艇によって Very High Readiness Joint Task Force の一部を受け持つ。

その他の独立任務としては、



主任務である「上陸戦闘」の他に写真のような任務を果たします。

- (1) 海軍艦艇の警護（海外展開の艦艇に海兵隊が乗艦して警護する。）
- (2) 信頼醸成のための支援および訓練
- (3) 原子力発電所警備
- (4) 臨検（レベル1～4までが海兵隊（艦艇警護隊員）、5以上がSBSの任務）
- (5) 人員回収（戦闘救助）

海兵隊の基準

Policy Provenance
Benchmark: Ways & Means

The ability to conduct Joint Action through Ship to Objective Manoeuvre (110nm) of an assault echelon of one commando group in a single cycle of darkness; the initial assault wave to secure identified objectives and comprising simultaneous delivery of one company group by air and one company group by surface in protected mobility from over the horizon in up to sea state 4, supported by effective BM, ISTAR and a range of protective and offensive fires. The Landing Force is to be capable of sustaining combat operations, independently, for 28 days with re-supply by air and surface means from the sea base located up to a maximum range of 30nm offshore.

DJW Joint Lit M CONUSE, Jan 2012

ここに記載されている基準が、海兵隊の方針としての根拠となっている。

「1個コマンドーグループは艦艇から目的地（110マイル）へ（1個中隊が空から、1個

中隊が Sea State4 までの荒天下で海から) 強襲 (上陸) を行い、30 マイル海上にある基地から支援を受けながら独立して28日間の継続戦闘に耐えうる。」

しかしながら、この基準は敵前上陸を実施することを言っているのではありません。説明に当たった ATG の幕僚と第30海兵コマンド一隊長によれば、「英国海兵隊は敵前上陸の実施を想定していない。」というコメントでした。

沿岸攻撃と将来海兵隊 (海軍 ATG は10月1日に LSG という名称に変更になりました。)

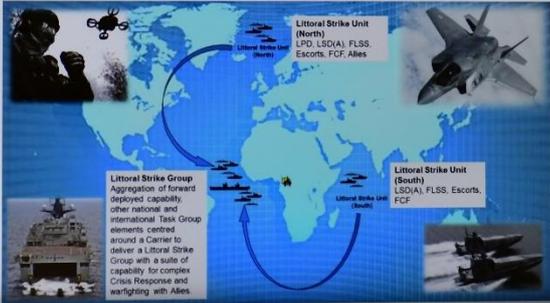
Littoral Strike and the Future Commando Force

- Transformational step
- Response to evolving strategic environment
- Constant hyper-competition
- Delivery of national competitive advantage
- Grey Zone, Crisis Response or warfighting



Phase Zero, Front Footed Posture & Globally Engaged

The Littoral Strike concept sees modern high-endurance littoral shipping (Future Littoral Strike Ship) and Commando Forces routinely forward based as Littoral Strike Units. With a combination of the right CSI infrastructure, manoeuvre assets and ISR, they can remain engaged with partners and proxies, provide a platform for the SIA Fusion and UKSF, and act as the Joint shaping force. They will be at the forefront of information warfare operating in the physical, virtual and cognitive domains, with a mindset of continuous pre-emptive action and an indirect approach.

右下の絵を拡大すると



英国としての安全保障上の権益のある海域における Littoral Strike Unit (HMS Queen Elizabeth 空母群と HMS Prince of Wales 空母群) を 2 か所に展開する意図と能力の保有が見て取れます。

英国海兵隊の特徴

上陸用舟艇も海兵隊所属 (海兵隊の所有物)



第1海兵強襲グループ (ターマル海兵隊分屯地) の整備場 (委託修理) にある LCM、適切に整備されています。このような LCM だけでなく、小型の LCAC やボートも海兵隊の装備品です。



写真のように海軍のドッグ型輸送艦に搭載されていました。(写真無し。写真禁止)

両用戦（Amphibious Operation）は海軍の担当

海兵隊の装備及び人員を「搭載」し、所定海面まで「進出」し、「事前掃討」をして、「統制」を取って「防護」し「上陸」（艦と陸との往復は海兵隊装備の LCM 等）させる。

The CATF / CLF Relationship

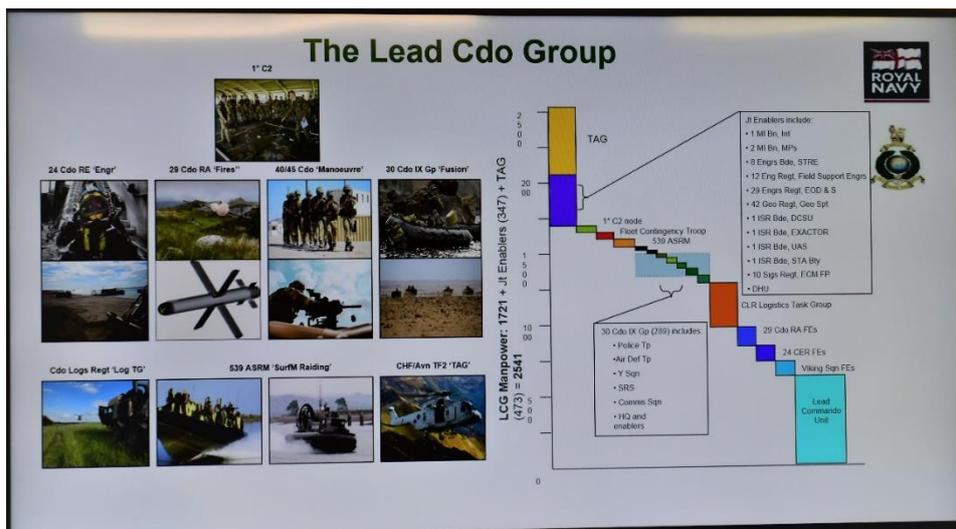


- Co-equals, irrespective of rank
- Supporting / Supported relationship
- Close and continuous relationship essential to success



（CATF：Commander Amphibious Task Force、CLF：Commander Landing Force）
第3海兵旅団長と海軍両用戦隊司令は同階級であり、相互に幕僚を交換している。

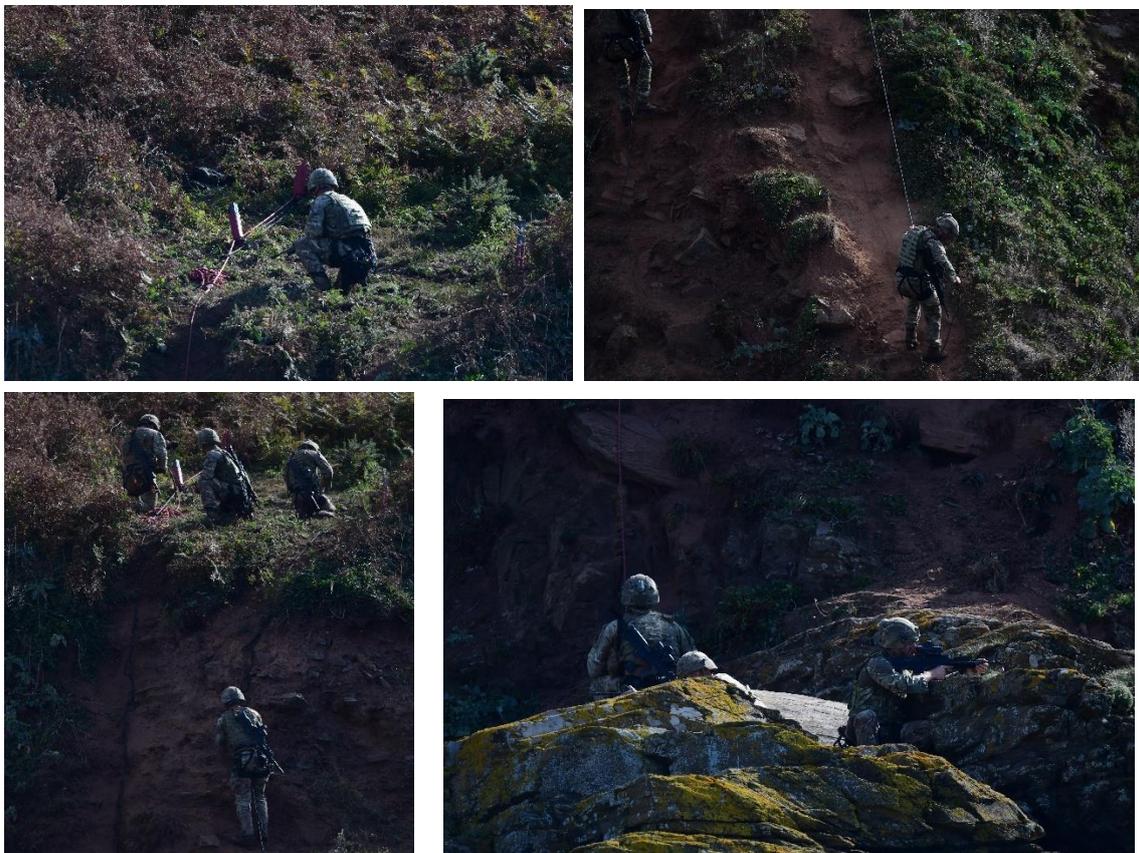
LCG（Leading Commando Group）として各部隊が存在



小さいながらも、工兵隊（技術）、同砲兵隊、機動部隊、強襲部隊、試験評価部隊も存在。

訓練状況の視察

第30コマンドーIXの潜入訓練（海上から視察）



RHIB 操縦もやらせていただきました。



海兵隊の歴史



（上記絵はインターネットからの転記・・・こんな感じ。）

英国海兵隊の創立は1664年にさかのぼります。近衛歩兵連隊が艦船への勤務を命じられたものです。海上における敵艦への接舷乗り込み戦術の頃から海軍の艦船と共に行動し、海軍艦船と共にありました。歴史が彼らの精神に叩き込まれています。この創立の母体と戦闘単位から、海兵隊の階級呼称や部隊単位呼称は陸軍と同じです。



この机はナポレオンが流刑されたセントヘレナ島で使っていた物を運び込んだものとの説明でした。(Officer's Mess の応接室)

歴史的に彼らは戦ってきました。それを連綿と繋いでいるのです。

(「アフガニスタンは From the Sea ではなかった。」とは言っていましたが。)



壁に掲げられた作戦立案図（オーバーレイ）はフォークランド紛争時の上陸作戦図です。SECRET の記載があります。



研修先の第1強襲グループの少佐（写真左）は身分証明書をみせてくれ、その身分証明書には「Royal Navy」と書かれていました。説明に当たってくれた第3海兵旅団副参謀長の中佐は「米国の海兵隊、あれは独立した軍隊。我々は Part of Navy です。」と発言していました。彼ら英国海兵隊は海軍の一部ではあるものの、Royal Marine（RM）と表記されます。しかし、必ず Royal Navy のエンブレムも入り「Navy Command」の表記も同時にあります。右は最初に挨拶した第3海兵旅団副司令官の名刺（早野撮影）

英国海兵隊は規模からして自衛隊の水陸機動団の参考となるでしょう。
海軍両用戦部隊司令部と第3海兵旅団司令部が同じ地区に存在し、統合幕僚組織を有する。



陸上自衛隊と海上自衛隊に提言できることは次のことではないでしょうか。

- ① 両用戦司令部（海自掃海隊群司令部）と水陸機動団司令部の近接化を図る。
（現在は幕僚の一部交換）

海兵隊の歴史が常に海軍（艦船）と共にある。「From the Sea」と「Sea Operation」が理解できる。

- ② 水陸機動団がチーム単位で海外派遣艦艇への乗艦勤務（艦艇の警備任務）を行う。
（海と艦艇の理解に大いに役立つ。）

歴史的に個人携行武器をもってする戦闘は海兵隊が、艦船自体の持つ武器で行う戦闘は海軍が行う。Part of Navy の役割の明確化がある。

- ③ 臨検（船舶検査）は艦船勤務の水陸機動団チームの任務とする。（艦船勤務の常態化）

戦闘に関係する乗り物は自らが保有し運行し整備する。（これらは武器である。）

- ④ 上陸に用いる LCM、LCAC を水陸機動団に管理替え、輸送艦の出航に合わせて搭載する。
（現 LCAC 隊は水陸機動団の隷下とする。海自制服のまま。将来は水陸機動団が保有。）

余談です。



第3海兵旅団からの頂き物です。